

# 言語活動の充実をめざして

東広島市立西条小学校 横田優美

## 1. 実践の趣旨

平成23年度「思考力・表現力を高める授業を創る～各教科における「言語活動の充実」を軸として～」という所属校の研究テーマのもとに取り組んだ実践である。「言語活動の充実」を通して、思考力・表現力を高めることに取り組んで2年目となる。本年度も言語活動の充実について考察してみる。

## 2. 実践の概要

### (1) 単元名

叙述を味わおう！  
— 「大造じいさんとがん」(東京書籍5年下)を活用して —

### (2) 単元の目標

- 進んで読書を行い、学習に意欲をもち取り組んでいる。【関心・意欲・態度】
- 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる。【C読むこと(1)エ】
- 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読む。【C読むこと(1)カ】
- 比喩や反復などの表現の工夫に気付く。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ケ)】

### (3) 手立て

#### ◎本時(11/12)における言語活動

本時では、登場人物の相互関係や場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる力をつけるために、椋鳩十の作品を比べて読み、その中から自分が紹介したい本を推薦する文章を書き交流する言語活動を取り入れた学習を展開した。

#### ◎思考力・表現力を高めるための単元において軸となる言語活動

- 同一作者(椋鳩十)の作品を読んで作品を推薦する文章を書く。
- 読む活動において、比較して・関連づけて・多面的に考えさせることで、思考力を高める。
- 話す聞く活動において、自分の意見と比べながら話し合うことで表現力を高める。
- 書く活動において、相手に伝わるような構成と言葉を使って書くことで表現力を高める。

### (4) 指導計画

#### 単元について

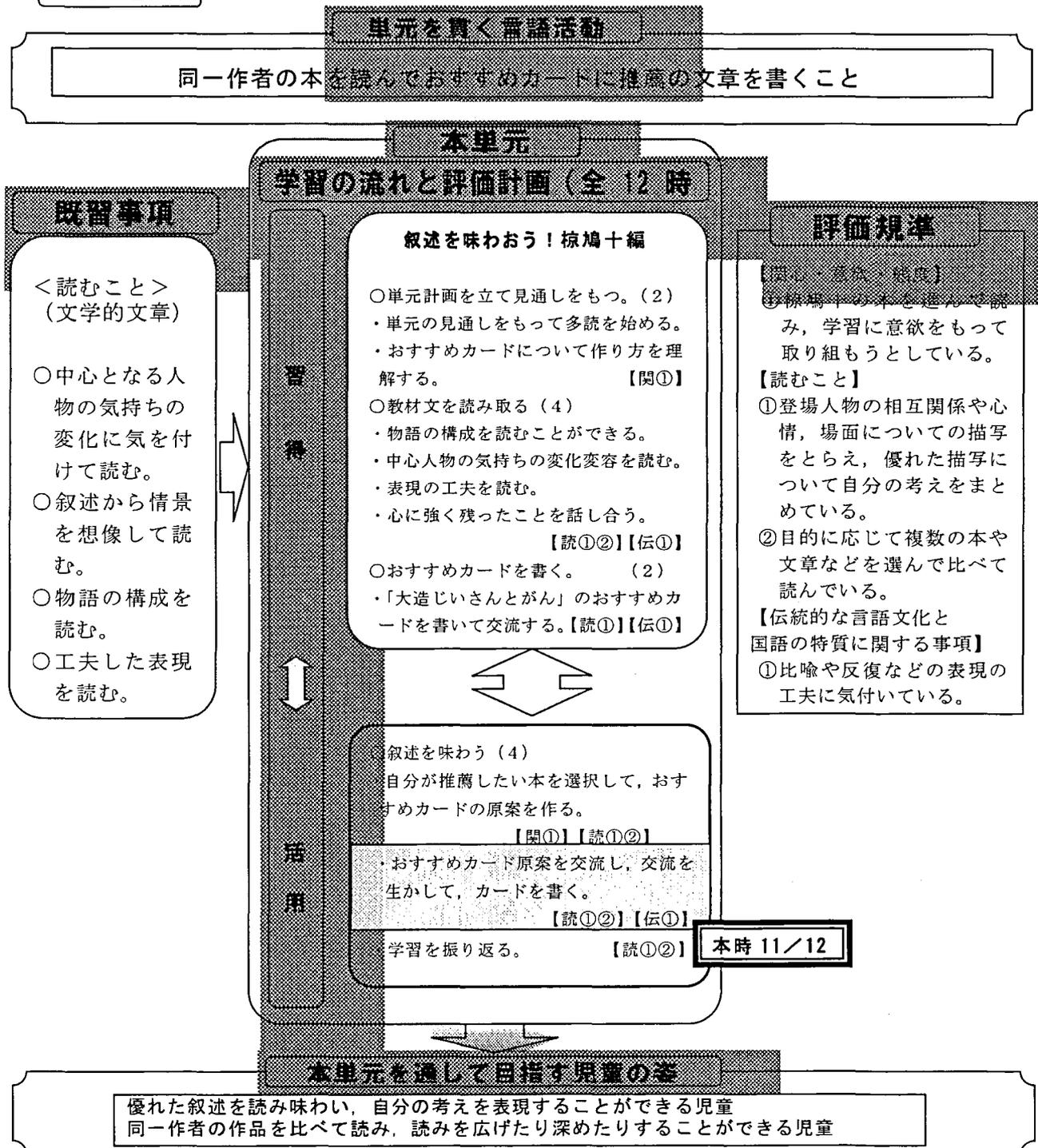
- 本単元は、物語文教材「大造じいさんとがん」で「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる力」を身に付け、椋鳩十の他の作品を読み広げることで、「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読む力」をつけることをねらいとしている。また身に付けた読む力を活用して、他の作品を推薦する文章を書く言語活動を設定することにより、中心人物の心が変容することに感動したり、優れた叙述の表現の工夫に触れて感性を伸ばしたりする等、読みを広げたり深めたり、読書活動を行うことにつながると考える。
- 本単元で高めたい思考力・表現力は、椋鳩十の作品と作品、叙述と叙述等を比較し、作品の世界を想像する中で自分の考えをもち、根拠を明確にして、推薦する文章(椋鳩十作品広告カード)で表現することである。多読により同一作者の作品を比較し、関係付けて、作者の伝えたいことや作品の世界を多面的に考える。その作品を表現する文章(広告カード～ポップ～)を文字数の限られた中で考え、適切に言葉を選んで書くことは、思考力・表現力を高めると考える。

## 児童について

○児童は、これまでに基本的な物語やファンタジー作品の構成を考えて読んだり、文章表現に気を付けて読んだりしながら文学的文章の読み方を学習してきた。市販テストによると物語の構成や文章表現に気を付けて読み取ることができる児童は85%で、内容が十分に把握できない児童が10%程度いる。読書は日常的に行っており、同一作者を多読する経験は前単元の宮沢賢治の作品で行っている。

○これまでの学習において、本の帯や解説ノートを作る活動を行い、構成や表現の工夫、人物の変容などを読む学習をしているが、叙述を根拠に、他作品を推薦する文章を文字制限のある中で考え、書くことは初めてである。根拠を明確にして自分の考えを表現する力は、見取りテストによるとまだ十分ではない。

### 単元構想図



## (5) 授業の様子

本時の目標

椋鳩十の作品について友達と交流したことを基にして、作品に対する自分の読みを広げたり深めたりすることができる。

評価規準

作品の大体を読み取り、叙述やキーワード、選んだ作品を推薦する自分の考えを文章にまとめている。

	主な学習活動〔主な児童の思考の流れ〕	学習形態	教師の働きかけ
つかむ	1 これまでの学習を想起する。(3分)	全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大造じいさんとがん」「椋鳩十作品集」から集めた学びを振り返る。</li> <li>・「椋鳩十作品広告カード(ポップ)」を作り、作品を推薦するというめあてで、意欲を高める。</li> </ul>
	2 本時の学習課題を確認する。(2分)		
深め ・ 拡げ る	「広告カード(ポップ)原案」を交流し、作品の特徴をとらえて、広告カードの推薦文を書こう。		
	3 同じ作品を推薦するグループで「広告カード原案」を交流し、共通のキーワードを見付け、全体に発表する。(15分)	グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直接的な描写のほかに、暗示的、象徴的、メッセージ性のある描写の叙述等を理由に、作品の特徴がつかめるキーワードが発表できるように、「広告カード原案」を書かしておく。</li> </ul> <p>「作品の共通のキーワードを発表しましょう。」<b>発1</b></p>
	(予想される作品) マヤの一生、片耳の大シカ、月の輪ぐま、孤高の野犬、カワウソの海 など		
	<b>思・表</b> 同じ作品を推薦する理由、作品の叙述を関連させて、作品の特徴を表すようなキーワードを考えて発表する。		<p>広告カード(ポップ)の推薦文から本の特徴を考えて、作品のキーワードを考えさせる。</p>
	4 グループごとに発表されたキーワードや広告カード原案の推薦文など、友達の考えを基に、作品を比べて似ていることや相違点を話し合う。(15分)	全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習の掲示や作品ノートなども参考にさせて考えさせる。</li> </ul> <p>「それぞれの作品の中で、似ているところや違うところはどこですか。」<b>発2</b></p> <p>「作者は作品を通して、何が伝えたかったのでしょうか。」<b>発3</b></p>
<b>思・表</b> それぞれの作品のキーワードや叙述の似ているところ、相違点を関連させている。		<p>広告カード原案の推薦の文章やキーワード、叙述から、作品の関連を考えさせる。</p>	
5 「広告カード」を書く。(8分)	個別	<p>話し合いを生かして、作品を推薦する適切な文章を相手に伝わるように書かせる。</p>	
<b>思・表</b> 話し合いと関連させて、「広告カード(ポップ)」の推薦文を書く。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「～」の作品をおすすめします。「～」という文章が強く心に残りました。それは、中心人物～の「～」の行動から、勇気のすばらしさを感じられるからです。</li> <li>・「～」の作品をすすめます。「～」の文章に感動しました。それは、作者が伝えたい「～」を伝えていることだと思うから</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>☆作品を推薦する文章を、キーワードや作品の特徴を示すような適切な言葉を選んで書いている。(広告カード・行動観察)</li> <li>◇机間指導を行い、作品のリストなどのヒントカードを与えて個別に支援し、書かせる。</li> </ul>	
6 本時のまとめをする。(2分)	全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦の文章がよりよくなったことを認めていく。</li> <li>・次時に絵も入れて、文章を完成させることで、意欲を継続させる。</li> </ul>	

### 3. 言語活動についての考察 (本時 11 / 12)

#### ①思考力・表現力を高めるための言語活動

比較して・関連づけて・多面的に考えさせることで思考力を高めるために、椋鳩十の作品を比べて読む言語活動を取り入れた。作品を比較した後、作者の伝えたかったテーマを問う発問を行った。

椋鳩十作品ノートをもとに発問①「5つの作品の中で似ているところや違うところはどこですか。」を行った。それは作品の共通のキーワードをもとにして共通点や相違点を比較することで、作品のキーワードについてあらためて思考し深く考えることができると考えた。

次に発問②「作者は作品を通して何を伝えたかったのでしょうか。」を行った。それは挙げられている5つの作品の様々なあらすじや叙述などを関係付けて思考し、椋鳩十作品を多面的に考えることができると考えた。

実践の結果、本授業においては、発問①のあと児童は「きずなや家族や愛情、友情が描かれているところが似ています。」と発言をした。発問②のあとでは図1、図2で示すように児童は「人と動物の関係、友情を伝えたいと思います。」「生きることの大切さが伝えたいです。」と発言している。また作品ノートの分析によると図3で示すように、椋鳩十作品ノートの推薦文の原案について、グループや全体での話し合いを基に加筆・修正を行った児童は、全体の90%である。

このことから本実践における作品の比較と発問により、読む、話す・聞く言語活動の充実が図られ作品を多面的に考える力を高めることができたといえる。

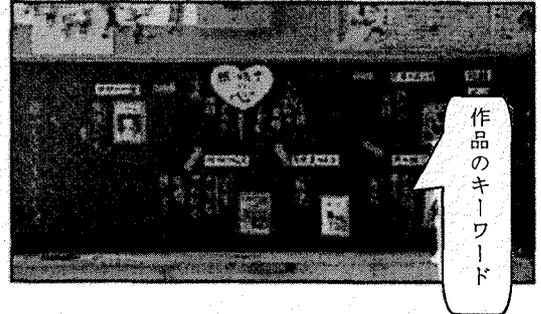


図1 作品の比較を示す板書

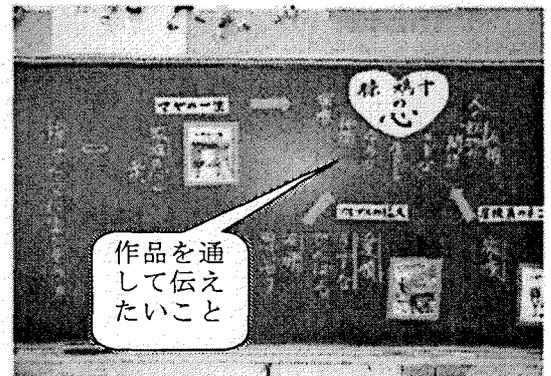


図2 5つの作品を関係づけて考える板書



図3 作品ノート推薦文原案の修正

#### ②思考力・表現力を高めるための言語活動

相手に伝わるような構成と言葉を使って書くことで表現力を高めるために、自分が紹介したい椋鳩十の作品を推薦する文章を書き交流する言語活動を行った。優れた叙述に気づき、自分の考えをもって推薦文を書くために、作品ノート指導を行った。(①中心人物②対する人物③あらすじ④心に残った文章表現⑤作品のテーマ⑥作者へのメッセージ等)

図4に示すように、一つの作品だけでなく、同一作者の複数の作品を多読し、優れた叙述に多く触れていくことで、作品を推薦する文章の言葉を多面的に考えたり、相手に伝わるような構成や言葉を使って書いたりすることの基になると考えた。その作品ノートをもとに、全体交流を行い、自分の考えを確認・修正する場を設けた。児童は作品ノートに書いたことを見ながら、作品のキーワード、作者の伝えたいこと等を考えたり、友達との考えや表現の違いに気付いたりすることができると考えた。

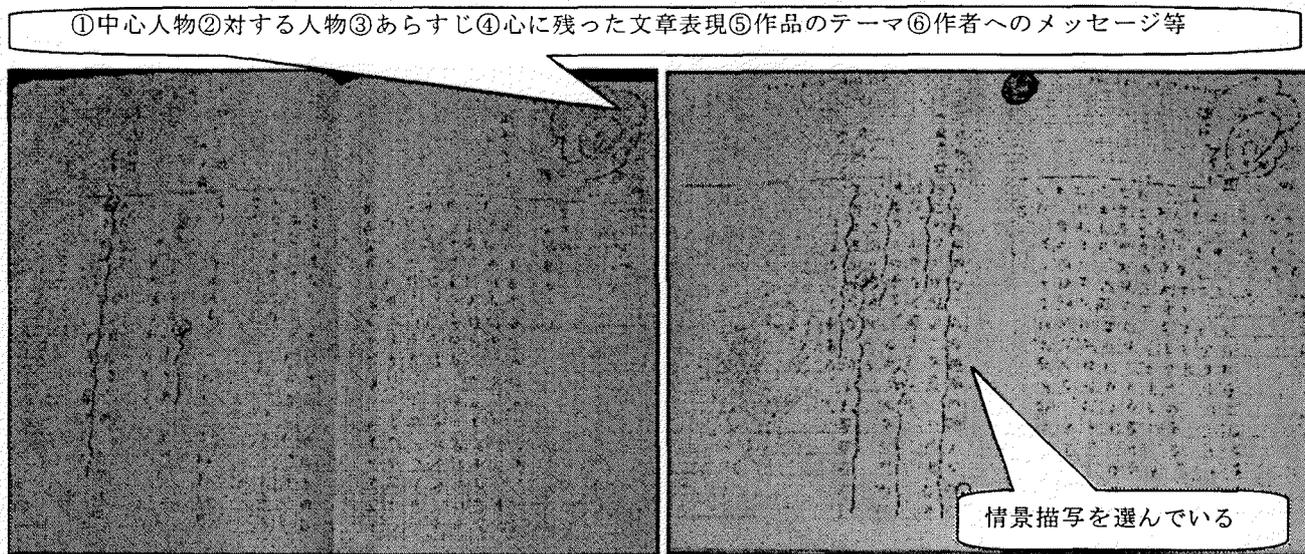


図4 児童の椋鳩十作品ノートの実際

実践の結果、作品ノート进行分析すると椋鳩十の作品を読み進めていくほど（平均10冊～15冊読書）、90%の児童は、テーマを表現する言葉が多様になったり、あらすじを分かりやすくまとめたり、推薦していくための文章表現が増えていったりした。優れた作品や叙述に触れることで言葉が豊かになり表現する力が徐々に高まっていき、ノートを基に話し合ったことで、叙述を吟味したり意味を深く考えたりすることができた。このことから本実践におけるノート指導の工夫により、読む、書く言語活動の充実が図られ、内容や優れた叙述を関係づけて思考し、自分の考えが相手に伝わるような言葉や構成を用いて表現しようとする力を高めることができたと考えられる。

#### 4. 成果と課題

本実践における発問やノート指導の工夫を取り入れた言語活動は、図5の「おすすめカード」のように、比較し多面的に思考する力や読みとった自分の解釈を文章表現と関わらせて表現しようとする力を高めることができた。学習活動に対するアンケートによると全児童が「作品を読む」「カードを書く」「テーマを話し合う」という活動に対する意欲をもち、「またやりたい。」と回答していた。意欲が高いことも思考力、表現力を高めることにつながると考える。しかし本実践では、作品ノート指導において個に応じた多様な段階のものではなかった。そのため、「心に残った文章表現」の項目で情景描写を選ぶ児童は40%あまりで、「大造じいさんとがん」の学習を活用しきれなかった。作品ノートを記述する際の項目の決め方や作品からの文章表現の選び方など、一人一人の児童に応じた指導方法を工夫、改善する必要がある。

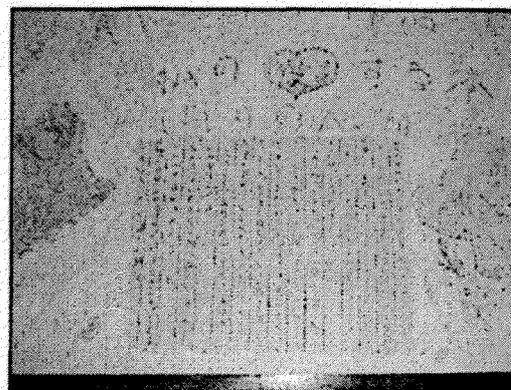


図5 児童が作成したおすすめカード